

のっぽの手

発行

ふくしまNPOネットワークセンター

〒960-8034

福島市置賜町1-29 佐平ビル8F

TEL024(528)1211 FAX(528)1218

はじめの一歩はこんな風に踏み出します ～パートナーシップ事業～

この始まりはこんな風です。昨年10月27日の夜に本ネットワークセンターの第3回理事会が、まちの和研究所会議室で開かれました。そこでは、プロジェクトチームの事業実施と編成が議論され、私は「企業・行政とのパートナーシップ事業」（担当理事：斎藤 実代表理事、林 克重理事）に所属することになりました。その後、福島信用金庫の佐藤英雄さんやFBC事務所の高橋 功さんなどを含めた打ち合わせを行ったり、またせんだい・みやぎNPOセンター代表理事の大滝精一さん（東北大学教授）の講演「NPOとの連携はいかに企業活動の枠組みを広げるか」や「サポート資源提供システム東北巡回フォーラムin福島」に参加したりして、何が可能なのかを考えてみました。

考えの1つの結論は「企業・行政」の範囲をより広くとらえ、「地域」と読み替えることでした。「地域」一般では抽象的過ぎるので、これをさらに「商店街」として言い換えてみることにしました。この言い換えで一步足を踏み出すことのできる可能性が生まれました。なぜ可能性が生まれたかといえば、この4月から私は福島大学経済学部の新入生に向けに教養演習を開講することになり、その演習テーマに「ウォッキングとヒヤリングとワークショップ～さあ、まちなかに出ましょう～」を掲げていたからです。「商店街」を「まちなか」と呼びかえることで、「教養演習」がなんと「パートナーシップ事業」の一端を担えることになったのです。

こんなことを林さんに話したところ、南福島商工会青年部を中心として自治会・学校・教育機関等によって「南福島e-まちづくり実行委員会」が発足し、「南福島・エコステーション」事業を進めるところになっているので、福島大学の学生さん

も参加していただけるとありがたいとの話を、逆に林さんから持ちかけられました。こんなところが、抽象的な意味での「地域（NPO）と大学のパートナーシップ事業」を開始する糸口となりました。糸口は早めに紡ぎ始める作業にとりかからなければ、失われてしまうということで、また鉄は熱いうちに打てといわんばかりに、早速、実行委員会のメンバーと



南福島駅前近くの居酒屋「村さま」で打ち合わせをするようになりました（2月19日）。

居酒屋「村さま」には、林さん他の青年部の方々が揃っておられ、ノミニケーションでパートナーシップ事業に向けての心意気を交換しました。林さんのご苦労で地域の側との交流の第一歩が踏み出されました。大学の側の第一歩は、果たして何人の1年生が私の教養演習に応募してくれるかにありました。経済学部の教養演習への学生の受講は応募制なので、募集を締め切ってみないと人数が確定できません。募集締め切り後の4月7日にわかったことは、幸いなことに20名の1年生が私の教養演習に参加することになったことです。20名の内訳は男子学生12名、女子学生8名であり、第1回目の教養演習での彼らの印象は、あらかじめ演習内容を明示して募集していたこともあり、非常に積極的であるように見受けられました。

第2回目以降は、次号のお楽しみ（次号につづく）。

山川充夫
(ふくしまNPOネットワークセンター監事/
福島大学経済学部教授)

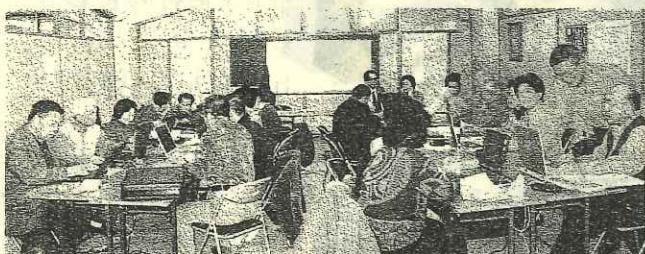
☆☆ わたしたちのNPO ☆☆

NPO法人 豊齢研ITサロン会津

これから的人生をいかに楽しく有意義に送るか、高齢者がいつでも集えるITサロンのような場所があったらと、2000年4月1日賛同者9名にて任意団体「豊齢社会研究会」を発足。2001年8月8日「特定非営利活動法人豊齢研ITサロン会津」として認証を受く。その後、毎月4回前後、年間通算約50回位、わいわいがやがや楽しくパソコン教室を開催してきました。

◆会員の声 《パソコンは高齢者にとっても最適な道具の一つであると言える。ITに触れながら人と人の交流ネットワークを密にし、個々人が持てる能力を惜しみなく出し合う。時には地域に出向き積極的に行動する。それは受身だけではない発信のある生活。これこそが、自立した生きがいのある生活を送るためにとおきの戦略だと考える。NPO法人豊齢研ITサロン会津への期待とその役割は大きい。豊齢社会を華齢に生きましょう。シャル ウィーIT》

(2002年4月現在 正会員43名 毎週金曜日会津若松市中央公民館にてパソコン自遊楽校開催)



事務局:会津若松市 070-5692-3476

f-Sports (総合型地域スポーツクラブ)

スポーツを核として、地域のコミュニケーションの増進を図るために昨年の4月に発足しました。地域の住民が自主的に活動しているのは、全国に総合型地域スポーツクラブが多くある中でも珍しいようです。

日常生活の中で「体を動かす」機会や場が失われつつある中、子どもたちの問題もいじめや生活習慣病等をはじめ深刻化していると考えます。その中にあって学校週5日制は「生きる力」を育むために実施されました。これから一層、家庭や地域の教育力の充実が求められています。

1 サークル: 子どもから高齢者、障害者誰もが生涯を通して楽しめるプログラムを提供する。

2 スクール: 子供たちがスポーツ少年団活動を通して「生きる力」を育むことを主眼とする。

3 イベント: 地域の人達との交流を促進するため季節等に応じたスポーツイベントを開催する。

上の3つを柱にボランティアの指導者によって活動しています。

クラブはどなたにも扉を開いていますので、気軽にクラブハウスをたずねてみて下さい。



事務局:福島市 024-515-3730 (法人認証申請中)

NPO運営Q&A

Q.

NPO法人が収益事業を行う場合の会計上の注意点を教えてください。

A.

●NPO法と税法で違う収益事業

NPO法上の「収益事業」は、収益を目的として、その収益を特定非営利活動に係る事業(以下、本来の事業と呼びます)に充てること、及び本来の事業に支障がないという条件の範囲内で行われる事業をいいます。したがって、対価を伴う事業でも、それぞれの法人の定款に記載されている事業に該当すれば、この法律上では収益事業ではありません。

一方、税法上の「収益事業」は、「販売業、製造業その他の政令で定める事業で、継続して、事業場を設けて営まれるもの」と定義され、事業の目的との関係ではなく、事業の形態により判断されます。

●NPO法に関する注意点

収益事業に関する会計は、本来の事業に関する

会計から区分して経理しなければなりません。

「会計を区分」するとは、収益事業会計を、本来の事業に関する会計とは別に設けることです。その場合、費用、収益のみならず、資産、負債、正味財産についても区分経理することが原則です。

また、費用のなかで共通経費などについては、合理的な基準をもとに按分する必要があります。

●税法に関する注意点

法人税法では、物品販売業や出版業など33項目の事業を収益事業として列挙しています。これらの事業に該当し、継続して、事業場を設けて営まれるもの場合は、本来の事業であるか否かを問わず、収益に対して課税されます。

法人税法上の収益事業を行う場合は、新たに収益事業を開始した日から2月以内に、所轄税務署長に届出しなければなりませんし、事業年度毎に申告が必要になります。このほか、県民税や事業税、市民税についても所定の手続きが必要です。

ふくしまNPOネットワークセンター活動報告

2001年

12/15 ボランティア国際記念事業 ボランティアフェスティバル in 福島のプレフォーラムとして
「NPOによる地域活動の創出～NPOはいかに地域を豊かにするか～」を開催
座談会：NPOによる地域活動の創出
井戸端会議

12/20 第14回NPO研究会—現代国際社会におけるNPO/NGOの位置づけ
ゲスト：吉高神明氏（福島大学経済学部助教授）

2002年

1/11 第2回地域通貨拡大プロジェクト会議
～まごころサービスでの事例を中心に～

2/13 福島県との懇談会
NPO活動推進に関する諸問題について

2/15 第15回NPO研究会 及び 第1回企業とのパートナーシップ推進プロジェクト会議
「NPOとの連携はいかに企業活動の枠を広げるか」
講演：大滝精一氏（東北大学大学院経済学研究科教授）

3/8 サポート資源提供システム(SSS)東北巡回フォーラム in 福島

サポート資源提供システム(SSS)東北巡回フォーラム

「企業の21世紀の生き残り策とNPO」

せんだい・みやぎNPOセンターとの共催

第1部 基調講演「企業とNPOのコラボレーション」

川村志厚氏（経営デザイン研究所代表、せんだい・みやぎ
NPOセンター理事）

第2部 サポート資源提供システム(SSS)の紹介

紅邑晶子氏（せんだい・みやぎNPOセンター常務理事・事務局長）

第3部 車座トーク「企業とNPOの連携の可能性を探る」

3/11 福島市長との懇談会



事務局近況

事務局を守ってくださる強い味方が増えましたので、自己紹介をしていただくことにしました。これからも、よろしくお願ひします。

後藤 宣代(ごとう のぶよ)さん

月曜日 13:00～17:00 火曜日 10:00～15:00勤務

はじめまして。夫の仕事の関係で、福島市に暮らしていますが、生まれは、島崎藤村『夜明け前』の世界の近くです。

4月から、月・火の常勤事務局、『のっぽの手』の編集に参画します。大学院では経済学を専攻し、理論経済学と文化経済学を学びました。

目下の関心は、「ポスト冷戦」時代の政治・経済システムを念頭に、男女共同参画、情報革命、文化創造都市、NPO・NGOにあります。一言にして「21世紀の社会デザインと生活様式論」です。幼少の頃から続けているフルートで、東京をはじめ、全国各地へ、黄金のフルートを鞠につめて、ボランティア演奏活動に出かけています。趣味は、テニス、そのおかげで、フットワークは、きわめて軽快です。どうぞ、宜しくお願ひします。

大井 正直(おおい まさなお)さん
水・木・金曜日 10:00～15:00勤務



家族など：福島市蓬莱町に妻と二人暮し。福島大学の事務方を2年前に定年退職。62歳。

きっかけ：在職中に仕えた星野、山川両元学部長からお誘いを受けたこと。

心配事：NPO活動の何たるかをわきまえないままうかつに引き受けてしまい、果たして責任を全うできるのだろうか、ということ。

モットー：まだ何もわからないけれど誠意をもって応対すること。

優先順位：福島大学への愛着と自身の運動不足の解消を兼ねて行ってきた大学構内の信陵公園と舟場町にある留学生会館の庭の美化活動（平たく言えば雑草刈り）は体力の続く限り優先させたいこと。

自分に自慢できる趣味：英会話自己学習暦20年以上継続中（但し実力はいまだに中3レベル）。

自分にも自慢できない趣味：プロ野球中継がはじまると巨人の敗戦と西武の勝利（西武の試合を観るためにのみCS放送を契約している）を願って二日酔いするほどビールを飲んでしまうこと。

ふくしまNPOネットワークセンターからのお知らせ

◇5月10日(金) 18:30~ 第16回福島NPO研究会

- ・場所/テーマ: 本センター事務所/住民協働を進める自治体組織マネジメント
- ・ゲスト: 遠藤哲哉氏(ふくしま自治研修センター企画主幹)
- ・参加費: 1,000円(会員500円)

◇5月11日(土) 自主上映映画会「百合祭」

~浜野佐知監督と女優・大方斐紗子(福女OB)のトーク&映画上映(100分)~

- ・場所と時間: 福島市公会堂 13:00~

- ・チケット: 前売券1,000円 当日券1,300円

- ・主催(チケット販売先): 高齢社会をよくする女性の会(024-557-4610)、NPO法人まごころサービス
福島センター(024-554-163)、NPO法人ふくしまNPOネットワークセンター(024-528-1211)

◇6月 8日(土)<フォーラム>21世紀の市町村のあり方を考える

- ・場所と時間: 福島市・杉妻会館4F牡丹の間 14:00~17:00 (参加費500円)

- ・内容: <報告者>竹内是俊氏(会津坂下町長)、菅野典雄氏(飯舘村長)、伊藤 寛氏(三春町長)
<コーディネーター>松野光伸氏(福島大学行政社会学部教授)

- ・主催: ふくしま地域づくりの会(024-522-2494)

◇6月22日(土) 18:30~ 当センター理事会(詳細は追って連絡いたします)

◇7月 6日(土) 当センター2002年度総会(詳細は追って連絡いたします)

シンボルマークができました!

ホームページで募集していました、シンボルマークが決まりました。デザインしてくださったのは、NPO法人FBC事務所の副理事長菅野仁さんです。

これから「のっぽの手」をはじめ、当センターの発行物でお目にかかりますので、よろしく。

イメージ

「のっぽの手」から
「のっぽさん」の連想、
そして「足ながおじさん」陰から手助けをしている背の高いシルクハットの紳士。

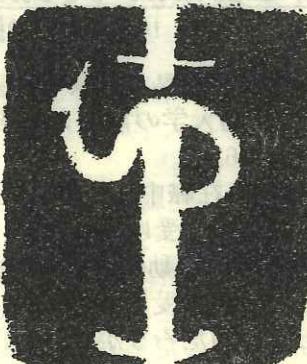
そのシルクハットは
アノニマス的に活動を
支えている象徴。

右手は人さし指で

「この指とまれ」、みんなが集まる、そしてネットワークが生まれる。

シルクハットと顔でふくしまのf(小文字)、右
手はNPOのN(少し傾けた形)、左手とからだはN
POのP、顔はNPOのOを各々表現している。

全体的にエッジにばかしをつけることによって
「やさしさ」「あたたかさ」「親しみやすさ」の効果を
ねらう。(作者 菅野 仁さん)



♪会員募集中♪

ふくしまNPOネットワークセンターでは、
月833円で私たちの未来を開く活動を展開して
おります。どなたでも参加できます。

正会員 年会費 10,000円

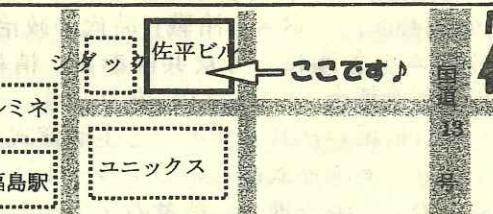
準会員 " 5,000円

賛助会員 " 50,000円

(たまに飲み会もあります!)

編集後記

今春の訪れは、例年にはない早さだというのに、『のっぽの手』は遅れに遅れてしまい長らく御迷惑をおかけしました。4月から、当センターは常勤体制が整いました。月曜日: 13:00~17:00、火~金: 10:00~15:00、常勤スタッフが対応させていただきます。『のっぽの手』の編集も、体制が強化されます。これからは定期的にお届けできることとなりました。御意見、情報など、どんどんお寄せください(のぶりん)。



★ 賛助会員 (2001年10月31日現在) ★

六陽印刷・タカラ印刷・東邦銀行

福島信用金庫・ラジオ福島

NTT(株) 福島支店

ふくしまNPOネットワークセンター 事務局
〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビル 8F
TEL 024-528-1211 FAX 024-528-1218
ホームページ: <http://www.f-npo.jp/>
メール: center@f-npo.jp